

放送部「声」講習資料（海部編）

【滑舌・アクセントの特訓】

（20170717）

氏名_____

■ 50音の滑舌 (海部編)

うまく言えるようになるまで練習しよう！うまく言えるようになったら、先生か先輩にOKサインをもらおう！
迷ったら必ずアクセント辞典で確認しよう。

(1) 「ア」の部

^{の あおい} 野葵, ^{い えあおい} 家葵

青い家 ^{あ いお い} 相生 ^{あ おい うり} 葵瓜

雨が降る日に飴を振る

阿波へ藍買い 甲斐へ繭買い

青は藍より出でて 藍より青し

私はあなたにあわれまれたくないのです

愛ゆえ会おう。会えば愛。愛すれば追う

相手に会ったら、愛想よく挨拶をしなさい

寒いときには、厚い服、暑いときには薄い服

暑い日に水浴びしたら、ますます暑くなった (あつく)

愛校心の強い愛子とは、いつ戦ってもおあいこだ

「^{あした}明日は頑張ろう」と^{あす}明日の文化祭の抱負を述べた

「暑い」と「寒い」、「厚い」と「薄い」は同アクセント

分厚くて厚い本にしおりを挟んだら、ますます厚くなった (あつく)

朝やけの鮮やかなあの朝、あの人はアイルランドへ旅たった

お綾や親にお謝り お綾や お湯屋に行くと 八百屋にお言い

秋がきたからか 飽きがきたからか あのアパートには空きがある

「あの人とは、^{あとくさ}後腐れなく別れました」という言葉は、十分にあり得る
案内があんまり上手だったから ここも案内悪くないのかなど安心した

^{おいうぐいす}老 鶯のいる梅のある青い家で青井愛さんの甥が試合前にあいまいな挨拶
あなたがたの鮮やかな赤い旗が揚がった時は頭がなかなか上がらなかった

お綾は、いやいや八百屋の親を負い、八百屋は、いやいやお綾の親を負う

お綾や 宵のうちにお湯屋へおいでいいお湯だよよい湯屋だねあのお湯屋は

あやしみと あやしむべきは あやしまず あやしからぬを あやしむ あやし

あのおアイスクリーム屋の新しいアイスはあっさりしたアーモンド味、味見は明日

^{うち}家の行灯丸行灯 ^{あんどん} 隣の行灯丸行灯 向こうの行灯丸行灯 三つ合わせて三丸行灯

あんなかたいかたはなかなかないわ、

あなただったら、あんなわかいかがわらったら、たまらなかつたわよ

天の宮の お宮の前の飴屋にあんまと尼が雨やどり 雨やむまであんまもうとあんまが申す

あんま尼もみ尼あんまもむ あんまうまいか尼うまいか あんまも尼もみなうまい

あんまもおもみゃれ尼もおもみゃれ雨やどり

「イ」の部

一矢を報^{いっし}いる
伊賀の栗は意外にいがが大きい
土地を委託する委員を委嘱された
今も胃が痛いのが、いまひとついまましい
名刺屋さん、医者と石屋を言い違えないようお言い
市場で一番生きがいい鯛をカゴいっぱい買っていこう
入^{にゅうかい}会して活動を始めたが入会権^{いりあいけん}が必要と言われ困った
さあ、お立会い、江戸一番の居合い抜き^{いりあひぬき}の試合の腕前を
今今と今という間に今ぞなく今という間に今ぞ過ぎ行く
一同を一堂に集めて「一期の願いだ イチゴをかごに一杯欲しい」
妙豆を炒るのか炒らないのか囲炉裡端に坐ったまま入れ物を出さない
威勢のいい茨城の医者が、椅子にもかけず忙しく生き生き動き回っている
芋焼酎^{いもしょうちゅう}を出す意固地^{いこじ}な煙草依存症^{いぞん}の親父がいる飲み屋は生き倒れ酒屋^{いみょう}の異名がある
いやいやもらった伊予みかんだが、いやいや無くなると、いや伊予みかんでもという

「ウ」の部

初産^{ういざん}で子供^こを得る
うるう年^{ういまた}生まれの初孫^{ういまた}の将来を占う
上野から魚河岸まで鵜^うが鮎^あを追い合う
うぬぼれはうようよいるが、うとまれて敬^{うやま}われない
牛や馬のように、うろうろ うかうかしていると、うんうん言わされる
瓜売りが 瓜 売りに来て 瓜 売りのこし 売り売り帰る 瓜売りの声
追い追われ会う。家の上で会う。青い家で会う。会えば言いたい。会いたいと
後ろの牛の様子をウシシシと笑いながらうかがう、ウキウキ気分の牛の後姿を見る子牛
歌うたいが 歌 うたいに来て 歌 うたえと言うが 歌うたいが 歌 うたうだけ うたい切れば
歌 うたうけれども 歌 うたいたいだけ 歌 うたい切れないから 歌わぬ

「エ」の部

猫を餌^{えづ}付けする
柄が欠けた 絵がかけた
縁は異なるもの、恩愛の縁
蝦夷^{えぞ}で暮らすも一生、江戸で暮らすも一生。
絵扇^{えおぎ}、絵団扇^{えうちわ}を持った絵姿になる江差追分
沿道に咲くエンドウの花を見ながら駅の前で易をみてもらった
えてして絵をかかない絵描きのかいた絵を、えらい絵描きを選び出した
宴会でエレクトーンを演奏した演歌歌手が、炎天下の沿道で遠泳大会を応援
映画館の経営者は、栄華を極めた推薦映画を上映しようと映画委員会に相談した

「オ」の部

空手王者の究極奥義は、奥深い
老いては 負うた 子に教えられ
おしまいまで臆病を惜しまれた尾張の大男
大皿の上に おおよもぎ餅 小皿の上にこよもぎ餅
臆病者の大男が、大通りで大騒ぎしながら踊っている
思ふ人 思はぬ人の思ふ人 思はざらなむ 思ひしるべく
思はんと 思ひし人と思ひしに 思ひしことも 思ほゆるかな
思ひなき 思ひに似たる思ひかな 思ひのうちに 思ふ思ひを
思えども 思い 思わず 思う時 思う人をや 思わざりけん
思へども 思はずとののみいふなれば いなや思はじ 思ふかひなし
お刺身は遅くおなりだから、お昼はお汁粉におせんべいとお茶をおあがり
恩愛の縁という 安易な言い分は 甥には受けいれられず お糸は会えない
お父様にお母様、弟さんもお連れして、皆さんお揃いでおいでになるのをお待ちしております

(2) 力行音

「カ」の部

今が人生の過渡期だ
垣に柿と牡蠣が干してある (かきにかきとかきがほしてある)
開眼供養を換算し佳境に入る
買った亀を甕にいれて飼った (かったかめをかめにいれてかった)
垣にかけた柿、殻の欠けた牡蠣
牡蠣を探す 柿を探す 垣を探す
会議室で会議派が会議を行っている
カムチャッカではなくカムチャツカ
完全試合を達成した投手が過払いで訴えられた
唐衣 また唐衣 唐衣 かへすがへすぞ 唐衣なる
堪忍のなる堪忍が堪忍か ならぬ堪忍 するが堪忍
上加茂の傘屋が 紙屋に傘借りて 加茂の帰りに返す唐傘
カンカンに怒った観光課の課員の顔をうかがう企画課の係員
川上からの川風で、からだがかさかさになった きゃしゃなカップ
世の中に かくべきものは かかずして 事をかくなり 恥をかくなり
神田鍛冶町の 角の乾物屋の勘兵衛さんの勝栗買ったら 固くてかめない 返しに行ったら
勘兵衛さんのかかあが出てきて 癩癩おこして かりかり噛んだらかりかり噛めた
加賀の家中の家老のかみさん髪結うかもじ 買おうか止そうか 止そうか買おうか
家老に聞いても皆目知れない
海軍機関学校機械科 今学期学課課目 各教官協議の結果 下記の如く確定
化学、幾何学、機械学、国語、語学、絵画、国家学、撃剣

「キ」の部

生地に雉きじの絵を画く。
規格価格か懸け引き価格か
既存品きそんを寄贈きぞうされて気味きみが悪い
菊桐菊桐三菊桐 合せて菊桐六菊桐
きのうの君は聞きしに勝るきれいな君
奇てらを銜い、区画計画された危険区域に侵入
鳥からすが木を枯らすので 木になる実が気になる
君の菊は君が作った菊か 菊作りが作った菊か
脇に雪を避けながら駅の前で易に手相を見てもらった
君をわが思はざりせばわれを君思はんとしも思はざらまし
外国から夏期休暇で帰国した企画局員に関し、刑事は聞き込みを開始
家の切戸の 桐の切口は 隣の切戸の 桐の切口に よく似た桐の切口だ
「汽車の汽笛が聞ける」と聞いて北から来たからには、ぜひ期待して聞きたい
幾何級数と価格計算のここかしこを書き消したり書き替えたりしたから気にかかる試験の結果
気さくで気がつき器量がいい利かんきかん気の菊子さんも、各クラスから口々に出る愚痴には苦しんだ
らんぎり白切り 磯きり ごま切りそば ゆづきり わさびきり 五色そば
太打ち 中太打ち 見きり 革きり 木の芽きり 菊きり 海老きり 百合きり 鯛きり
みかんきり ねっきり はっきり これっきり

「ク」の部

熊が食う栗 熊の来る国
奇くしくも大変奇妙な人に出会った
栗の木の切り口にある鎖は腐りが早い
鶏にわとりを九羽くわと桑一貫目と鋏を届けてくれ
この杭の釘は引き抜きにくい抜きにくい
区画整理区域につき、車はくるなとくどくど言われた
久留米くろめの潜り戸は栗の木の潜り戸 潜りつけりゃ潜りいいが潜りつけなきゃ潜りにくい潜り戸
クリームたっぷりの栗入りのクリスマスケーキを買って帰って、
けじめをつけるために結婚の決意を語ったクリスマスイブ

「ケ」の部

賢人は境内けいだいで喧嘩をしない
毛皮と毛糸の景気は、桁外れに険しいと経済連が警告
警戒心の強い堅実な経験者が、結束して決定した結構な芸名
捲土重来(けんどじゅーらい)を期して競馬けいばの競走馬きょうそうばを競売けいばいにかけた
恵子と柿描き、菊描き、苔描く稽古。描きかけたが恵子は右利き、左利き？結構気がかり

「コ」の部

戸口調査

子を拭く 粉を吹く

広告通り心ここにはない恍惚の人

その子の子供の頃の友と、この頃会った

文書研究家が小気味よく古文書を解読した

心こそ心迷はず心なれ心に心こころゆるすな

心こそ 心を計る心なり 心の仇は心なりけり

梓弓引きみ弛へみ来ずは来ず来ば来そをなぞ来ずは来ばそを

今日は夏季長期休暇中、高校野球を見学に甲子園球場へ来た

異文化に接し 考え方を異にする人たちがいることを知った

根気よく婚期を待つ姉妹の鏡台を高利貸し（こーりか° し）に取られた

困ることに、ここもあそこも心ない古古米を食べて、根治（こんじ）した

凍え死ぬような寒い時、濃いコーヒーより濃いココア、広告どおり濃く入れた

来むといふも 来ぬときあるを 来じといふを 来むとは待たじ 来じといふものを

一寸ばかりの小僧が 小袈裟に紺ころもに小数珠を小首にこがけて小坂を小降りに小寺に参り候
後世に残るような高性能を目指して、「ああせい、こうせい」と指図していたら、

「もっと公正な構成に構成しなさい」と、厚生労働省の幹部候補生の好青年に叱られて、
向精神薬を飲んだ

「ガ・カ〇」の部

長崎からはがきが来ました。

親亀 子亀 子孫亀 親鴨 子鴨 子孫鴨

巢鴨駒込 駒込巢鴨 親鴨子鴨 大鴨小鴨

画竜点睛 概算した外語学校の学費に愕然とした外交官

鴨、米噛みゃ、子鴨が紛米噛む、子鴨米噛み、鴨紛米噛む

英語言語学会に長靴を脱がずに出た高利貸しの山形大学の菅口さん

崖上の学校の頑固な学生が、ガリガリ先生にガミガミ言われてガクガクになった

向こうの菜畑に 羽鴨が百羽に 子鴨が百羽、羽鴨が米噛む、子鴨親鴨子鴨が紛米噛む

ガキが学校から下校してすぐゲームした。鍵もかけず、があがあうるさい。語学学校ぐらい行け。

元気はいいが逆鱗にふれる。

親亀の背中に子亀を乗せて、子亀の背中に孫亀乗せて、孫亀の背中にひ孫亀乗せて、

親亀こけたら子亀孫亀ひ孫亀みなこけた

「ギ・キ〇」の部

鍵を握る議論好きの議員が議事堂にぎっしり

将棋の掛け銀の詐欺師を非常口から逃がすなんて嘆かわしい

銀座の街頭で、議論家同士がギスギスした激論を交わしている

ギンギンギラギラ、銀色づくしの月光仮面が銀河の国からやってくる

義歯義眼義手義足おまけに擬似コレラの義兄を義理で扶養する義務がある

銀行へ義理のために犠牲者あて義援金を出した、ぎすぎすした議会の議員

「グ・ク〇」の部

チャンゲンソクにグツときた官軍に軍配（ぐんばい）が上がる
グラウンドが豪雨に見舞われグチャグチャに、グループ全員ゴールせず
時雨の降る夕暮れに、間口の狭い文房具店で絵具と輪ゴムを探すギャング
「グラタンの具がグリーンピースばかりは嫌だ」とグルになってグズグズ言う

「ゲ・ケ〇」の部

峠の店の杉の木に菅笠かけて、すぐに帰った昼過ぎ
元気なあいさつを励んだ、現存（げんぞん）する芸人
兼業農家の現状を見学したら、すぐに原稿を書きなさい
劇場でガンガン売れている劇画の原作は、現在限定出版中
小切手を持った衆議院議員は、大金持ちで管弦楽がお好みだ
「告げ口されて機嫌が悪い」と怪訝^{けげん}な顔で宣言されたが加減せず
下宿人が減少して元気がない現実主義の下宿屋は、現在外科医とゲーム中
玄関先の下駄箱の前で、元気な芸術家を脅した芸人はゲジゲジ眉毛の激情家
ゲーテの原作を現代風の劇にしたが、下痢がはやり客は激減。月給は下の下だった。
えげつないつけひげつけてねぐら探すな。夜具の上げ下げぐらい義理でもしろ。凍えるぞ。
25にもなってまごまご、もごもごか。

「ゴ・コ〇」の部

極^{ごくさいしき}彩色なご^{じんか}神火
昨日五升今日五俵
第五交響曲に観客驚愕
駒込のわがまま者 中野の怠け者
不合理な新原理に現場はげらげら笑った
五島列島に豪壮な御殿を持つ豪農ご夫妻
真心のこもった見事な歌声に心を動かされた
まごまごしている孫が、ギンヤンマに逃げられた
天然氷のかき氷はおなかが冷えて、もうこりごりだ
花が咲き、木々の緑が輝く午後、小学校の会議に出た
ゴム靴を履いた傲慢な強盗が、豪快にご飯を食べている
互助会の合議制はゴチャゴチャして考えもの、業をにやす
このごぼういいごぼうだ取っておいて盆の盆ごぼうにしよう
和菓子好きの看護師が、洋楽を聞きながら鏡の前で髪形を考えている
豪州に嫁ぎ、郷に入れば郷に従いたいが、おお鴨子鴨の号令かけは、業腹だ
ガラガラゴロゴロごめんなさい昨日五升で今日五俵、五丁目米屋でございます
長崎県の高木さん、孫と一緒に「ライオンキング」と「人魚姫」の映画を鑑賞中
ポルトガル語ご専門の山形さんが言語学会議にご出席のため、今月15日の午後、ご上京になります
今日午後学校で剣劇ごっこ。
きっかけ菊子がごくきかん気で、きっかけ聞く気か聞かん気か、御小言くいくいきっかけを聞く

「キャ」の部

隣の客はよく柿食う客飛脚

飛脚が栗むきゃお客が栗食い お客が栗むきゃ飛脚が栗食い

華奢なのを屈強な健脚家にする研究家が起居を共にして強化 脚光を浴びた

「キュ」の部

空虚な九州空港の究極高級航空機

「キョ」の部

高架橋橋脚

東京特許許可局の局員の許可証

他者と共存（きょぞん）する教師

極右政権になって年俸が下がったことは至極当然だ

京都の中心は京都市 和歌山の県庁所在地は和歌山市

今日、京から狂言師が来て、今日狂言して京の故郷に帰った

交響曲や狂詩曲は高級だが客観的に見れば空虚だと許可せず却下した

特許許可局の局員に東京特許許可局許可局長 今日 急遽休暇許可 拒否

特許を許可する農商務省特許局、日本銀行国庫局、専売特許許可局、東京特許許可局

顧客に謙虚な義兄弟も「呼吸器気胸療法で余興の歌曲を矯正せよ」と言われきょとん

もずが鳴きますトッキョキョカキョク、子もずも鳴きますチョッチョチャチョク、

親もず子もずがトッキョチョチャキョク

「ギャ・キ〇ヤ・ギユ・キ〇ユ・ギョ・キ〇ヨ」の部

水槽にギユウギユウ詰めの熱帯魚

牛馬の虐待は苛虐性の表われと言えるが被虐狂も苛虐狂も異常性格だ

可逆反応の逆不可逆反応 不可逆反応の逆可逆反応 可逆反応も不可逆反応も化学反応

「客」シリーズ

貨客船^{まんびとんぼん}万景峰号

隣の客はよく柿食う客だ

客船の客室の^{りよかく}旅客は先客よりも珍客

貨客船^{かきやくせん}の旅客は、貨物と一緒に旅客運賃が安い

貨客船の旅客が危険と 旅客機の乗客が知らせた

危険区域通過か 貨客船の旅客と旅客機の乗客が訓練決行

貨物船の客、客船の客、貨物船の客の方が貨物と同じで旅行価格が安い

貨客船は橋脚に突き当たり火急のことで救急車が駆けつけたが結局は苦境に立たされた

お客が柿食や 飛脚が柿食う 飛脚柿食や お客も柿食う お客も飛脚もよく柿食う客飛脚

■「かく」と読む語

客気、客郷、客卿、客恨、客意、客衣、客寓、客遇、客月、客歳、客作、客棧、客愁、客舟、客将、客臣、客恋、客地、客中、客亭、客冬、客年、客兵、客房、客夢、客遊、客裡・客裏、客旅、客臘、客懷、羽客、雲客、煙客、延齡客、花客、華客、画客、雅客、看客、閑客、寄客、俠客、狂客、俠客伝、吟客、月客、行客、狎客、甲板旅客、孤客、碁客、座客・坐客、知客、詞客、詩客、衆客、十二客、酒客、主客転倒・主客顛倒、熟客、食客三千、政客、清客、説客、雪客、仙客、遷客、禪客、騷客、俗客、待客、通客、陪客、蕃客、百代の過客、飄客・嫖客、文人墨客、蓬客、名花十二客、門客、野客、遊客、旅客機、旅客自動車、旅客車、旅客船、浪客

■「きゃく」と読む語

客足、客あしらい、客扱い、客位、客色、客受け、客扱み、客演、客戸、客好み、客座、客先、客座敷、客辞、客車、客車便、客衆、客商売、客神、客人、客塵、客人権現、客好き、客筋、客席、客膳、客層、客量、客種、客単価、客勤め、客殿、客止め、客取り、客引き、客部、客札、客振り、客分、客間、客待ち、客向い、客用、客寄せ、客来、客料、客路地、客観価値説、客観主義、客観性、客観的、客観的観念論、客観的真理、客観的精神、客観的妥当性、客観テスト、客観描写、客気、相客、一見客、一客、一客一亭、色客、重客、面客、貨客車、貨客船、槽客、顧客志向、顧客ニーズ、顧客満足、集客、招客、掌客、掌客使、新客、接客、接客業、先客、船客、千客万来、大尺客、月の客、佃客、独客、内容、長客、独り客、末客、洋客、臨時客

(3) サ行音

「サ」の部

三方（さんぼう）が山に囲まれた山地

二つの殺人事件の惨劇(さんげき)を相殺する

悟りとは悟らで悟る悟りなり悟る悟りは夢の悟りぞ

桜咲く 桜の山の 桜花、咲く桜あり 散る桜あり

山すその笹原で、笹の葉がさらさらそよいでいます

炭素値が最高値に達したため株価が最高値を更新した

逆手（さかて）にとって、当時の様子を際限なく再現する

兄上の里親は、砂糖屋や八百屋より愛育委員がいいんです

算数の先生が差し入れに刺身とササミをくれたのはつい最近

山紫水明の山荘で 拙者は雪舟先生の 山川草木の書に接した

笹原、佐々木さん、佐々三郎さん。3人さっそくあさって誘ってさしあげよう

行政監察特別委員から行政監察のため差し遣わされた査察使が警察署を査察した行政監察査察室史

「休ませていただきます」は「休まさせていただきます」，「帰らせて」は「帰らさせて」が正しい

佐賀の佐々木三郎さんと狭山の佐々佐吉(さっささきち)さんが、

さる日さる酒場で皿のサバを肴に酒を さしつ さされつしていたと、さる人がささやいた

「シ」の部

死を悼む 詩を読む
生産者の申請書審査を示唆
総理大臣から親王飾りの天皇賜杯を賜った。
色紙に式辞、敷地に地道、しじみ汁に七味
ヤシの実を獅子が喰い、菱の実をヒヒが喰う
防戦のしがいもなく市街は死骸で一杯だった
新設診察室視察は最新式写真撮影法で試写した
瀕死の使者 親切な先生 必死の疾走し七変化^{しちへんげ}
信心深い新人の宍戸さんは、早速新設の診察室を視察した
質素な式に主賓として出席し、新郎新婦や周囲の親戚と祝杯をあげた
死を前に詩を読み千頭の騎馬の先頭に立って戦史に輝く戦死をとげた
新春早々信州出身新進シャンソン歌手総出演新春新進シャンソン歌手ショー
進路指導の先生と一緒に進路資料室に行ってしんどかったから心療内科にも行った
無所属新人の笹沢三郎候補は手術中にもかかわらず高速増殖炉サザナミを視察した
獅子汁 獅子鍋 獅子井 獅子シチュー、以上獅子食試食 審査員試食済み、新案獅子食
避暑地の支所で秘書に白執事が黒羊に白羊が黒執事に白く広い広場で執拗に会うのは必要なことだ
梨の芯と 茄子の芯は 茄子の芯と 梨の芯だけ違い
茄子の芯と 梨の芯は 梨の芯と茄子の芯だけ違う

「ス」の部

燕の巣を酢に漬けて、洲を渉る っぱめのすをすにつけてすをわたる
隅に積んだ炭から錫で作った鈴が出てきた。
しし すす すし すずな せり すずしろ
筋違いのお寿司屋さん、ただいま必死に疾走中
寸暇を惜しんで勉強し、寸暇を惜しまず無駄遣いした
スパイス好きでスパ好きなスパイは、スパゲッティよりもすき焼きが大好き
世を捨つる 捨つるわが身は 捨つるかは 捨てぬ人をぞ 捨つるとは見る
住吉のすみは住みよいか、すずめが巣をくって巣早すずめの巣立ちするらん
須瀬さんを寿司に誘う。酢飯食い、世辞を言おうか。指図されそう、寿司誘うと

「セ」の部

先生は生徒に選出させて選手を作る
せっせと整形した青年めを世間は責めねえ
親切な先生 背の低い背格好^{せかつこう}の先生が背伸びした^{せの}
千頭の牛を先頭に乘せた船頭が戦闘中に尖塔のある銭湯に行った
制服姿の青年が、切実そうな面持ちで正式試合の整理券^{せいしきじあい}を請求しています
浅草寺の千手観音 専念先日千遍拜んで、千束町でせんべい買って千食べはせん

「ソ」の部

組品 粗酒 粗食

好感度が高い人に会い相好^{そうごう}を崩^{くず}す

ソーセージにそうっとソースをかける祖父

創作作家はいつでも創意工夫しているに相違ない

それぞれこの子騒々しいぞ、そらそらサクサク掃除せよ

村長の総領は、そそのかされて染まったが、卒業前に、そりが合わぬと総括された

「ザ」の部

漸次増税 座右の銘

座頭の懺悔 前夜の風

肘 膝 地面にゴザを敷く

在家とは普通の家で仏門に帰依すること

残存^{ざんぞん}する残務にさんざん、サービス残業は全部終了

雑音だらけの雑然とした画材屋で、座布団を並べて雑魚寝^{ざこね}した

在校中だけ、暫時ざわざわとして雑音だらけの雑貨店で雑魚寝

ザーザー雨が降り、サージの記事は実際にずぶぬれで完全に丸損

ざるの残飯をザクザク食べて、混雑のなかで雑誌を読んでいるきざな奴

「ジ」の部

地味なじいやの自慢の地酒

自費自弁 自業自得 自分勝手^{かって}な沈丁花^{じんちょうげ}

肘が匙にさわって紅茶茶碗が地面に落ちた

医師が慈悲心から自費で石地藏^{こんりゅう}を建立した

持論を曲げない自信家の次女は、実は意地っ張りなだけ

十種競技優秀賞受賞者は電車操車場出身の車掌で俊足選手

じわじわとくる地震にじっとしてられずじたばたする御仁

実際に 10 人で 10 回の実験する装置を 10 分で運ぶには十分だ（じっかい、じっぷん）

三時に自治をあずかる知事が静々と入場し 難しい切実な人事訴訟事件で指示

おじさんと前回ぜんざいを食べた座敷で、果実酒や地酒を味わいたい自分勝手な自分

自治体が自主的に随時自治権を發揮したいが座敷で地蔵状態の自治体はじっと動かず。

是が非でも自治権は是正せねばならぬ。

「ズ」の部

ザーザー弁でズルズル鼻すする爺

坊主が屏風に上手に坊主の絵を猫いた

頭上の凶面をずいぶん丁寧^{ていねい}にずーっと見る

サイズの合わないズボンをズルズル引きずっている随筆家は、頭痛持ちのはず

「ゼ」の部

漸次^{ぜんじ}是々非々主義

頭脳明晰 絶体絶命

全校生徒の座禅絶景

前述の事情、前日の実情

演説がうまい総理は全国遊説^{ぜんこくゆうぜい}に臨んだ

前任者は絶妙な話術で全員から絶大な信頼を得て絶好調だった

全店を挙げて税引き商品の宣伝したのに、産地の天然物の売れゆきが前年より進展なしとは残念

「ゾ」の部

寄贈された秘蔵の像を見たがる家族がぞくぞく来場する

俗曲にぞっこんほれた人が造船所ではぞんがい増加している

増築の造船所では、象牙細工にぞっこんほれ込む人が増加中だ

芝の増上寺の上棟式には大僧小僧に大僧正、俗人も加わり上々だった

「シャ」の部

打者走者勝者走者一掃

作者の脚色 役者の約束

医者、石屋、名刺屋、眼医者が市役所試写室に参集、終了後、しゃあしゃあ終車に乗車

緑の下の地藏様に足さし出さっしゃいますなど言ったのにまた足さし出さっしゃいました

宿舎でシャンソンを口ずさみシェーカーのシェリー酒をのむ自称実証主義主唱者が失踪し失笑

戦車の射手^{いしゅ}に機銃掃射で射殺されるなど、勝者も戦傷死者を出し資産を死守したが、

ついに収拾し終止符

「シュ」の部

繻子^{しゅす} 緋繻子 繻子 繻珍^{しゅちん}

手術室で主治医が手術した

質屋の主人は猫の好きな主人

出入国^{しゅつにゅうこく}の議員は再出馬か不出馬か

主義主張習慣趣味など多種類記述してください

辞職した首相は小学校卒だが出世 しかも小説や詩集を出版した秀才宰相

集団就職出身の消火器商が輸出商社の社主に昇進したが首相召集の祝勝会で射殺された出色私小説

周囲の諸情勢を参照し 終始審査に専念せられし秀才諸氏の意志を重視し

誠心誠意 御成案 即時実施に賛成する

「ショ」の部

消息筋の推察

骨粗鬆症訴訟勝訴

小生先週初秋の信州を一周

中小商工業振興会議最新式出札口

司書と秘書の試験に精霊流^{しょうりょうなが}しが出題された

処女作は処世術だけの自主性のない私小説だが著者主張の趣旨には承服させられた

「ジャ」の部

ジャックとジョージが柔道を習う

桑野山には蛇じやがいるじゃげな 牡蛇おじやか牝蛇めじやか わしや知らぬじゃが

じゃじゃも じゃもじゃと 泣くじゃげな

「ジュ」の部

国語熟語述語主語

太宰治は入水自殺じゆすいを遂げた

その数珠は、増上寺の僧正の数珠

魔術師手術中、手術中集中術著述

儒者の儒者くさはは真実の儒者ならず

順風満帆じゆんぷうまんぱんで、充実した柔術の授業に終日従順に参加して、重傷を負った自分の実力

美術室 技術室 手術室 美術準備室 技術準備室 手術準備室 美術助手 技術助手 手術助手

「ジョ」の部

無秩序な状態

除雪車除雪作業中

ジョジョは女性と徐々に饒舌になった

あぜどじょう 田どじょう 田どじょう あぜどじょう

上方僧じやうほうそう 書写山社僧そうみょうだいの惣名代 今日けふの奏者は書写じゃぞ書写じゃぞ

書写山の 社僧正 書写山の社僧正 させしすせそさそ さしせすさそせそ

(4) タ行音

「タ」の部

多士たしせいせい濟濟

暖かくなる高曇りの天気

向こうの格子に竹立てかけた

赤煙草箱 黄煙草箱 茶煙草箱

大勝した大将とは対照的な対処法

かつてとんでもない貴い鉄人が土地を買い、鉄筋の家を建てたとさ。

たちまち市が立ち、人は去らず、立ち退かせたとさ。

たまたま卵とタイ米を棚に並べたまでのこと

この竹垣に竹たてかけたのは、竹たてかけたかったから竹たてかけたのです

たいへん達者な足袋屋さん 太鼓の代わりに たらいをタンタンたたいて 啖呵切る

タラコとタラをたらふく食べて、まだ食べられたら、食べられるだけタラコとタラを食べるがいい

「ちょっと立って手伝ってちょうだい」といったんで、

立ったとたん「立ったついでだ。たどん取って」とまた言われた。

上高畑に行くのですか下高畑に行くのですか

いいえ上高畑でもなし下高畑でもなし中高畑に行くのです

「チ」の部

地質学的知識

手を向けた先に花を手向けた

地図では近いあちらとこちら

自己を研究しあつた知己の間柄

地磁気に血道の知識人の父君ちりちり

乳房が小さくて、乳飲み子が乳を飲めない

小さな地域のチークパーティでチイチイ泣いた

知人のお父上のお力添えで、長女は知事になりました

地図では近いあちらとこちら、地上ではちょっときつい

弟と地質学知識をはたらかせて田を耕すつもりが父に徹底的にたたかれた

「ツ」の部

狐 鶴 燕

妻堤（つつみ）の月を見つつ待つ

月づきに月見る月は多けれど月見る月はこの月の月

スーツケースに詰めたツイードのスーツを作ったのはいつ？

つらければ つらしと言ひつ つらからで 頼むとならば 我も頼まむ

鼓と小鼓を一包にして小包で出し、ついでに月々の小遣いを引き出した

堤に釣りに行くつもりで吊革につかまりつつ、包みを開けて釣り道具を開く

うちのつるべはつぶれたつるべ、隣のつるべはつぶれぬつるべ、つぶれぬつるべとつぶれたつるべ

「テ」の部

私鉄 鉄橋 転轍手

殿上人が伝馬船に乗った。

テクニックを見るテストだけに手加減なし

山王の桜に猿が三下り 合の手と手と手々と手と手と

敵は手ごわい手を使ってきたが、徹底的に戦ったら撤退した

「ト」の部

東北地方の特派員

投網で捕った鳥貝は大きいので取りがいがあがる。

通帳包んだ包と尊い短刀とをとりそろえて店頭取引

特許を許可する農商務省特許局、日本銀行国庫局、東京特許許可局

とどまらば とどめてましをとどめても とまらぬ年を 如何でとどめん

遠くを飛ぶ鳥を取ろうと通りに飛び出して、ちょっとちょっとと止められた

十日市の藤堂さんが、トコロテンと唐きび団子を十ずつ食べて十日後にダウン

とってつけたようなとったりでも てっとりばやくととととったりひけば とんとん白星土つかず

とてちてたとてち てとてちてとてちてた おっと踊った

とんつつ とんつつ ととんつつ どんたく踊りを踊ろうぞ

「ダ」の部

大学代表者 第一回議題
出生の秘密をもった団塊の世代
大宇宙の大所帯を脚本にした大舞台
凶画工作が大好きな五反田の大工の子
大学施設視察団代表者会議議題で大紛糾
損害の大小にかかわらず代償が支払われる。
ただ駄々っこを抱っこしただけなのに、脱臼して黙りこむ旦那
代々地主次第なのに、大上段に構えて駄々をこねたから談判決裂
大学の代表でもない団体だけに、どうもほとんどがたどたどしいドイツ語

「ヂ」の部

叔父の自慢は、自分で作ったちぢみ織りの浴衣と次男にもらった夫婦茶碗

「ヅ」の部

海岸伝いを歩いてヒノキ造りの知人の家を訪ね、西京漬けを届けた

「デ」の部

電話連絡 電報打電
マッカーソーさんはコロラドの出だぞ
出ずっぱりのデビューの後はどんでん返しでドサ回り
出会いがしらに出来心で、でたらめまかせでデートした
デザイナーには電話では連絡できないので、出先から電報を打電
電報の電文に専門語が断片的にならんだので難問型の文面となり、ちんぷんかんぷん

「ド」の部

道路 道具 道義
毒多き毒の中にも気の毒は何より毒なものでこそあれ
今度の土曜日は土用の丑の日、道場で同僚とどじょうすくい
どンドン、どこでも、どうにでもするというのでは道理が通らぬ
同大のダンディーな大投手がデッドボールも気にせず投打に大活躍、堂々単独でどんでんがえし
ジゼルの役をどうだと打診されたが、どうだもこうだも、時代が私を出せと地団太踏んでいるのだ

「チャ」の部

茶煙草のんで煙草茶のむ、茶煙草煙草茶、茶煙草のむ
隣りの茶釜は唐金茶釜 うちの茶釜も唐金茶釜でどちらも唐金茶釜
八丁味噌は卒中に、抹茶は脱腸に効くからすぐ必着するよう発注せよと坊ちゃんに言われたが
率直なところ困っちゃってるよ
家の娘一人お家奉公いたさせたくもいたさせたし
また家において生竹の青竹茶筴でお茶立てさせたさも立てさせたし

「チュ」の部

囲碁で中押し勝ちした
中立国の仲裁中止で、中共駐在の中将は宙ぶらり
厨房に立つ注文取りの店員、立って伝票を取りに行った
備中の道中の府中で 焼酎飲んで 口中が痛んで 夢中になった

「チョ」の部

検察庁長官と警察庁長官が重複して公聴会の聴衆を前に長口舌をふるった

(5) ナ行音

「ナ」の部

長持の上に生米七粒
長町の七曲りは長い七曲
うまやの生わら生ぬれわら
京の生鱈 奈良の生まな鱈
殿様の長袴 若殿様の小長袴
生米七粒七並べて眺めてなめた
親猿が大生芋食い 小猿が小生唐芋食う
あの棚のなた豆は煮たなた豆か生なた豆か
涙雨の降る中、波風に吹かれながら涙を流す
七曲署のデカが、ななめになった名札を舐めた
生麦 生米 生玉子 生貝 生だこ なまりぶし
菜の花の咲く中庭に並んで、何気ない話を長々と話す
向いのなげしの長なぎなたは誰が長なげしの長なぎなたぞ
なせばなるなさねばならぬ何事もなさぬは人のなさぬなりけり
正月七日七草 煮詰めて七草粥か七草汁か、七草汁か七草粥か
菜畑ロードの菜花畑で菜花づくし定食を食す名畑さんにバナナを投げた
なほもなほも いひても いはむ けふもけふ 思ふ思ひの つもるつもりを
何が何でも夏がいいが、生ぬるい夏の生ビールはどうにもこうにも飲みにくい
生米 生松葉、生杉葉(すぎっぱ) 生杉葉二つ合せて二生杉葉、生杉葉 生松葉
河原なでしこ野で咲く野菊、それでその根を引き抜く、抜くには引き抜きにくい抜きにくい
何の濡れ衣か、何ゆえの何か何にも布は語らず。2年の年月はなににもならぬ。野に泣きぬれぬ
なだらかで長閑な菜棚田に体を横たえて蟻とキリギリスのきりきり舞の危険なリレーを見物した

「ニ」の部

練絹に平絹

親に似ぬ子は鬼子

認識不足(ぶそく)の庭作り師 (にわつくりし)

西側の庭に楡の木にニシキヘビが二匹

新潟に行くお兄さんは西隣の庭で 荷役をした

臭いに鈍い新妻も、この肉のニンニクの臭いは気になるらしい

浅野内匠 頭は刀傷はなかったが、殿中で刃傷沙汰に及んだ。

「ワニが庭から逃げた」と聞いたら、ニヒルな兄さんも逃げ腰に

二十羽いた鳥、にわか西向いて西隣の庭に二羽逃げたのをうちの庭から見ていた

ニコニコ、ニタニタニヤニヤ荷を担い、にやにやと似ていない似顔絵を書く似顔絵かき

日本海流は日本海には流れていないので、日本共産党は日本国民に対し

日本銀行に抗議するよう通知した

「ヌ」の部

ちょっと打ったるこの杭は引き抜きにくい抜きにくい

ヌルヌルのぬかるみから抜け出そうとして、泥沼にはまった

目抜き通りへ行く抜け道には、ペンキ塗りたてのカヌーがあった

この杭の釘は引き抜きにくい釘、引きにくい釘、抜きにくい釘、くぎぬきで抜く

あの女の縫う布は名はなにと泣いたら、あの布は名の無い布なのとなだめられた

濡れねずみの盗人が荷主の荷物の絹物を盗んで濡れた着物はぬるぬるのぬかるみに脱ぎすてであった

「ネ」の部

音を上げて 寝に行く

お姉さんは、ネールを塗って寝入る

金とコネを使ってもらった子猫がネズミを狙う

根がついた稲に値がついたので寝に行った

練馬の街中を練り歩きながら、ネタはないかと頭をひねる

「眠い眠い」と言いながら、なかなか寝ない姉を見る眠そうな目の姉の猫

「ノ」の部

野原でのびのび、のんきな野ねずみ伸びざかり

ノッポののびるくんは、農作物を食べて背が伸びた

ねえねえ、このノート誰のノート、君のノート、僕のノート

丸ののの のの字のなりの 世の人の ころの丸き のぞよき

むさし野の 笹の小笹の 露のうへの 夕の月の 影のものうさ

かたかなノ ノノ字ノなりノ 似たもノノ 笹ノ葉ノ絵ノ 墨ノ一筆

いにしへの ことの残れるみよしのの 吉野の奥の かげろふの小野

老いの身の 腰ののびたる杖つきの 乃の字のなりの 字の如くにて

昨日の納涼大会はのっけからノリノリで、ノーとも言えず飲みすぎた

「ニヤ」の部

くにやくにやと曲げるしんにゆうはしんにようとも言う

くにやくにやの如意棒もむにやむにや言ったら入道雲までによきによきのびた

「ニユ」の部

しんにゆうの漢字を10書いてから牛乳を飲む

入国審査で、入梅に入隊した大入道がにゅーと首出した

「ニョ」の部

女人禁制の山と女護ヶ島

万事不如意で外面如菩薩内面如夜叉とはいかず入梅のような女房の顔

どじょう によろによろ 三によろによろ 合わせてによろによろ 六によろによろ

上の溝に、どろ泥鰌(どじょう)によろりん 中の溝にどろ泥鰌によろりん

下の溝にどろ泥鰌によろりん三溝三どろ泥鰌三によろりん

(6) ハ行音

「ハ」の部

凡人を集めた凡例

800メートルリレー

端にある箸を持って橋を渡る

働かずなら博多の花形百貨店だ

端から疑う花が咲き、鼻が詰まる

早合点で、不満のはげ口にしてしまった

掃いたばかりの廊下で履いた 新しい履き靴

張り切って早く行って、晴れ舞台で実力を発揮しよう

花嫁の母は、娘の晴れ姿をハラハラしながら拍手で迎えた

博士は大学院出、学士は大学出だが、お天気博士には中学生でもなれる

母のほほに微笑みを見て、ほっとした春雄に母は皮肉な微笑みを返した

「ヒ」の部

広島^の紐^で火鉢^を縛^る。

火^にあたるより日^にあたれ

他人^{たにん}の話^は他人^{たにん}行儀^{ぎょうぎ}で他人^{ひと}事^{ごと}だ

東^{さん}が東^{から}干菓子^をもらってきた。

潮^のひいた昼^下がり広い干潟^で潮干狩^り

ある日 昼 ニヒルなあひる ヒル^にひるんだ

人多^き 人^{の中}にも人^ぞなき 人^になれ人 人^になせ人

菱沼^{さん}が七五三^に綱^{つな}を引くため菱形^の新聞紙^を敷いた

羊皮紙^の表紙^の批評集^をひきだしから引きだして避難^{した}

氷雨^降る東^の冬空[、]寒^さがひしひしと身^にしみる昼^下がり

その日^の昼^は、日替^{わり}品^のヒレカツ^と冷奴^を一人^で食べた

日^の本^の肥後^の火川^の火打^ち石^日々にひとふた拾^ふひとびと

比較^も批判^もせず腐敗^{した}ひどい政治^に拍手^{する}皮肉^な消費者

ひどいどしゃ降り^で、避難^{した}ひさし^の下^で、ひたい^に氷雨^がひとしづく

人^の非^は非^とぞ憎^みて非^とすれど、我^が非^は非^とぞ知^れども、非^とはせず

一つ^目の駅^で降りた一目^置く男^に一目^ぼれした人妻^が、人知^れず持つ一^眼レフ

羊皮紙^の表紙^を日向^{ひなた}の秘薬^で百パーセント漂白^し ひょう変^{した}風評^がある批評集

ヒトシ^とヒロシ^は、ヒトシ^を言い間違^えないようにひしめく瀕死^の人^を必死^に助けた

「フ」の部

雨^が降^る 飴^を振^る

古風^な振^る舞^いをする二組^の夫婦^は不治^{ふじ}の病^{やまい}

フカフカ^の布団^{の上}で不満^{そう}にフルート^を吹^く双子

服^作る夫婦[、]古服^作る夫婦[、]靴^作る夫婦[、]古靴^売る夫婦

「へ」の部

併存^(へーぞん)した変化^の無い編曲^{へんきょく}に辟易^{して}返却^{した}

塀^や兵器^の無い平和^な世界^を願^う、平凡^な兵士^の平穩^な生活

へなへな^の批評^を書いた^{ので}批評集^にへなへな^の批評^を載^せられた

変換^{された}変数^に変^な変数^を編入^{した}ため返事^を代返^{した}変人^が大変^な目^にあった

「ホ」の部

本堂の脇の本道

帆を上げる 穂を垂れる

放送の冒頭、母校の暴動を、ほぼ報道

東の星空を見て、星がほしいと微笑みながら頬を染めた

本当は他の本がほしかったのに、もう方法が無いなんて不本意な話だ

北海道の実家のすすめでこの学校に越境入学したとうっかり日記に書き、目下学級では厄介者あつかい

母の頬に微笑みを見、ほっとしてはやばやと逃げた

へりふみやれ へりふみやれ おへりふみやれ おへりおふふみやれ

北氷洋のスッポンのしっぽをコップに入れ密封したものを一本、

かっぱらいに失敗して引っ張られるより月賦で買おう

帆は比布ひっぶのほうへ張り、日の国の抱負を言う。

平和憲法を発布したら人々は張りあうように張り切って帆を比布ひっぶの方へ張った
頬に浮かべる笑いは微笑み、頬につける頬紅。

頬にかぶるのはほっかぶりとも言うがほうかぶり、あるいはほうかむりが本当

「バ」の部

国旗県旗と共に大漁旗たいりょうぼたを掲げた

馬場が高田馬場で幅を利かせている

発信者団体が発足したが罵詈雑言ぼりぞうごんが相次いだ

馬鹿げたお化けがバイバイするまでバタバタしたとは馬鹿馬鹿しい

昨晚ソバ屋でバイト先のバイヤーとぼったり会って、サボりがばれた

バナナ屋ははなはだばかばかしい、バタ屋は はなからはかなさがある

あのバックシャンは仏文出で羽振りがよく煙草を吸いビールをのみ、

バーベキューとハンバーグを食べ、ビビデバビデブーを歌う

「ビ」の部

赤カビ病びだんしの美男子

美容院 病院 便覧はっぴやくやちょう 八百八町

便箋をびりびりに破いた穩便でない日々

美学ではビギナーのビルマの美女も、文化の違いには敏感だ

ビシビシ ひっきりなしに引き締めたら非力のヒッピーも必死

病院と美容院、美容院と病院を秒刻みでひょうひょうと往復する

ビュッフェパーティーでビール瓶を倒し、びっくりしているビストロの主人

備後の貧乏なお坊さん、豊後へ行って豊後の屏風に備後の貧乏なお坊さんの絵を描いた

「ブ」の部

節回しが渋い木曾節を武士がうたう
ブス、バスガイド　バス、ガス爆発
ブツブツ言いつつ、渋谷支部で昆布の^{ぶんびぶつ}分泌物の成分を分析中
念仏をブツブツ唱えながら、粒ぞろいのブロッコリーをバンバンぶつけた
葡萄酒好きの舞踏家が、ぶつぶつ言いながらブラスバンドと舞台に立ったのは初舞台の日
ブタがブタをぶったらぶたれたブタがぶったブタをぶったので
ぶったブタとぶたれたブタがぶったおれた

「べ」の部

勉強ができると便利だ
鍋屋の矢田部さんと壁屋の阿部さんは別の人
返済期日が過ぎた弁当屋の弁済については、別途弁護士に相談のこと
ベルベットのベレー帽をかぶり、ベージュのベストを着たベジタリアン
別荘のベッドで、のべつべたべたしているのは別にかまわないけど別行動にして

「ボ」の部

坊主が屏風に上手に坊主の絵を書いた
野望を捨てて、志望校を絞って辛抱強く勉強し、希望を叶えた
棒もいろいろ　無謀乱暴泥棒ごぼう天秤棒やらけちんぼう　武蔵坊やら朝寝坊
ボロボロの帽子をかぶったボーイは、いま僕とボテボテしたぼた餅を食べている

「パ」の部

パリのフランスパン
赤パジャマ黄パジャマ茶パジャマ
パリでナンパされたパンナムの立派なパイロット
パパイヤとパイナップルがいっぱいのパフェを食べてパワー回復
パナマからバハマへ無防備な亡命をして飲み物も食べ物も尽き果てた
パンチの利いたパプアニューギニアのパンクバンドのパフォーマンス
パリでパスポートを取られたのは、ぱっとしない淡白なパリジェンヌだった

「ピ」の部

ピリピリ辛いピリ辛柿ピーをピクニックのおやつにピックアップ
ピアノの発表会にピンクの^{はっぴ}法被を着てきた、ハッピーなすっぴん美人
ピカソが金ぴかの鉄筆でかいたピカピカのピクニックの絵がぴかっと光った
ぴん子ちゃんとぼん子ちゃんが風呂行って、ぴん子ちゃんがぼん子ちゃんの腹けて、
ぼん子ちゃんがぴん子ちゃんの腹けた、ひじ鉄砲でポンポンはねつける

「プ」の部

プールでプルンプルンのプリンを食べた
プリプリ怒っていたパパも、プリクラでハッスルしすぎてもう腹ペコ
コップやカップ、プレートを手にも、プリンやプルーンを食べるプロレスラー
クマのプーさんとプリティなヘップバーンがプラタナスの木の下をプラプラ歩いていた

「ペ」の部

ペルシャのペンナイフに、ヘルシンキのベル
ペンギンに敏感すぎる番犬は軟禁して林間を探検
ペチャクチャ喋るペルー選手が、ペナントレースでペナルティー
このペットショップの店員は、ペンギンの絵のワッペンを付けている
ミスターペペは北京語もペラペラ、ペルシャ語もペラペラ喋る

「ポ」の部

ポピュラーミュージック
ポーランド製のポットに入ったポプリがポイント
ポリポリパリパリとポテトチップを頬張りながら、北京語のお勉強
ポッポちゃんもピッピちゃんもパップ言うだけ。
ピッピちゃん、ポッポちゃん、ぽっぽとポップコーン食べて。ペツとしないで。

「ヒャ」の部

百尺 百里 百薬
酒は百薬の長など諺には百が多い
百里に行くものは九十里をもって半ばとす^{なか}
百人が百人、北斗七星をヒシヤクの形とみるでしょう

「ヒョ」の部

合評会の選評は悪評好評寸評短評
氷点下の冰山と流氷の中を漂流中と公表
ひょっとした拍子に豹変するのは秘中の秘

「ビャビュビョ」の部

伝染病予防病院よぼよぼ病予防病室伝染病よぼよぼ病予防法
びやくえ びやくえしやうぞく びやくい ぎやうじや ほうくい
白衣観音のような白衣装束をした白衣の行者が白衣の天使に出会った。

「ピャピュピョ」の部

コンピューターが八百八町に突拍子もない発表をし信憑性を疑われた^{はっぴやくやちやう}

(7) マ行音

「マ」の部

馬子にも衣装

お前の前髪 下げ前髪

幕を巻くまで種を蒔くのを待ってくれ

窓際の窓口から窓の外を目のあたりに見て戸惑う

まるいまるい、まんまるな鞠のようにまんまる丸い

ママのまねしておままごと、ママは儘よと気ままなママ

万一と思っていたが またまた まんまと まやかしに負けた

稀に マライヤ マラリヤ マリルリ 丸々 満々 まろやか

旦那の眉毛は長眉毛 お前の眉毛は曲げ眉毛 二人合わせて長曲げ眉毛

まわるまわる目がまわる まわるまわる輪がまわる 見ている私の目もまわる

わがママママのままならない継子。このまま、継子はママのままならないままか

待ち合わせの街で待ちぼうけを食って、待ちくたびれたところ、見知らぬ人から耳寄りな耳打ち

青巻紙 赤巻紙 黄巻紙で三巻紙 青巻紙 赤巻紙 黄巻紙 で六巻紙まきまきつないで長巻紙

「することがなくなって、もてあますこと」を「間が持たない」ではなく「間が持てない」という

上賀茂の紙屋の孫兵衛と、下賀茂の塩屋の孫兵衛が六つゴマ勝負。上賀茂の紙孫か、下賀茂の塩孫か
魔ものが娘の目をぬすみ鴨の胸を焼いてモグモグ食べた。

鴨好き娘は目に物言わせ魔ものをしとめるといい、身内ともめた

天王寺の舞々堂から舞を舞えとの毎度の使い 前度のように舞が舞えるなら

参って舞も舞ますけれど 前度のように舞が舞えませぬ故 参って舞は舞いませぬ

「ミ」の部

樗の丸薪 割る薪割り

好みの木の実は好みの木の實

未払いの商品があつて見え隠れ

潮の満ち干で右の耳から耳輪を3つ

見守る者がいておめみえもままならない

三日前の三月末日、御影石に腰掛けてみんなで三日月を見上げた

黒蜜のうまい店の三つ豆を持って、港町の南さんを見舞いに行った

南の海の波のまにまに、ミキオとミナミが身を寄せ合って浮かんでいる

宮家にとっては結構な御世だったが脈拍がとだえたように終戦

妙案もないままその翌年に苗字隠して妙義山の麓まで都落ち

「ム」の部

紫水晶(むらさきすいしょう)

無理に結んだ結び目 6つ。

睦美と宗男はむつまじく糸を紡ぐ

向かいのつとむが麦の穂を無理して結ぶ

麦ごみ麦ごみ三麦ごみ合わせて麦ごみ六麦ごみ

虫歯の痛みをむやみやたらに我慢するのは、もう無理

睦美という名前の無名の女優は、いつもむっつりして無気力そう

むかむかとしてむくむく起き むにやむにや言っていた報いでむくむ

取り締まり中の向こうの道に、無謀にも無免許で向かう向こう見ずの娘

「メ」の部

名士に面識

眼医者 名刺屋

滅入めいるような迷路めーろに嵌はまって目色めいろが変わる

目上は目下に目をかけて面倒を見、芽を摘むな

目が覚める前に、迷宮で女神にめぐり会う夢を見ていた

目にも止まらぬ速さでメモを取り、めまぐるしく動くメッセンジャー

梅めでし 式部しきぶ経るまま 跡あととへば 花の軒端のきばは 香ぞか 添そふて出でる

メカトロニクスとは、メカニズムとエレクトロニクスを合わせた和製英語です

「モ」の部

両刃もろばの剣つるぎ

猛暑で朦朧としている猛獣の猛襲

駒込のわがまま者 巢鴨のなまけ者

もろもろの物も、もともとモロッコの模造の物

すももも桃も桃のうち すももも桃ももう熟れたから、もう売れよう

もしも紅葉もみじを見るなら、最もいい乗り物はモノレールだと思うよ

下々の者が桃をくれと申すか。そもそも桃は我が家の守り木と申しておけ。

「ミヤミュミヨ」の部

ミュンヘンで妙な噂に猫ミヤアミヤア

猫が拝みやがる 犬が拝みやがる 馬が拝みやがる

ミュルン公国の名代が妙なみょうがを食べて明晩までミィミィ泣く

(8) ヤ行音

「ヤ」の部

朝焼けは雨 夕焼けは晴れ

家々の家並^{やな}みが広がっている (やなみが)

屋敷の焼けあとにしあわせなやもりがいた

八百ろ^{やお}ずの神の宿る^{やしろ}社の屋根に矢が刺さる

やわらかな風が吹き、日差しが和らぐ春先の日

山が高く 山中見えぬ 山中恋しや 山憎しや

山々を越え やあやあ やれやれ やっと今夜の宿屋

痩せの大食いが安来節 (やすぎぶし) の我慢大会でやせ我慢

八雲立^{やくも}つ 出雲八重垣^{やえがき}妻ごめに 八重垣つくる その八重垣を

屋台で野菜を安売りしている八百屋のおやじは、野球チームの役員だ

弥生の宵 お湯屋へ寄った居合い屋さん やいやいいわれて 湯屋でいやいや居合いをやる

やややせた 八百屋と屋根屋が 闇夜に安い宿屋の横で 厄除けの山焼きをしたら

弥生さんや八重さんが やんやんやとはやしたてたとはややこしい話だ

「ユ」の部

雪の夜景 柚湯の夢

優柔さを誘発する憂鬱な遺言

ぬるぬるのぬる湯でぬくぬく

悠然と遊説^{ゆうぜい}する政治家は優勢だ

柚湯のある湯屋へ行こうと言い合う

夕月に 悠々 ユルユルのゆるふんで夕涼み

夕刊で謡曲熊野(ゆや)の由来を読んでゆうべは熊野^{くまの}の夢を見た

金拾ふ 夢は夢にて 夢のうちには こすると見し 夢は正夢

世の中は 夢と思うも 夢なれや 夢を 迷いというも 夢なり

雪降りて、郵便局員は郵便局に行けず、なんと言われても郵送できない

夢のうちには 夢もうつつも 夢なれば 覚めなば夢も うつつとをしれ

悠々としているようだが もはや猶予はならぬ

ゆくゆくは ゆゆしきものとなる故 ゆめゆめ油断 めされるな

「ヨ」の部

欲深い人はよく、くよくよする
養子が用事の要旨を用紙に書いた。
よぼよぼの予防法にヨーヨーを要望
お皿のおよもぎもち およばれしたい
ニューヨークでは夜中に酔いながらよく本を読んだ
宵に良い酒を飲んで酔いがまわり夜目にも奇怪な嫁を見た
余裕があったのに油断して、床に湯飲みを落として顔をゆがめた
世の中を 思ふもくるし 思はじと 思ふも身には 思ひなりけり
栄養剤の用法をよく読んで、要領を守って服用したら容体がよくなった
よき人の よしとよく見て よしといひし 吉野よく見よ よき人よく見
世の中を かくいひいひのはてはては いかによいかに ならむとするや
八日の夜の夜廻りは酔っぱらって夜通しよろよろよろけていたが夜明けまでよく四回まわったよ

(9) ラ行音

「ラ」の部

陸上競技の花形は1600mリレー
ラクダのシャツを着て 暖炉の前で ラジオの団らん
落花生の落下速度とクラッカーの落下速度を知らせる
「ラララ、ラブソング」はきらきらした珍しいラブソング
ラジオが旅客列車脱線を伝えたので、声を荒らげてののしった
支払われるものと見られているが それは認められなければならない
来日中に落馬した楽天的なライダーは、ランニング中に落雷にあったらしい
「食べれない」は「食べられない」、 「来れますか」は「来られますか」が正しい
いらいらするから笑われる 照れるからからかわれる だらだらするから侮られる
ラバかロバかロバカラバか分からないのでラバとロバを比べたらロバカラバか分からなかった
西空から薄雲が広がって、空っ風の寒さが身体中に感じられたので
ラグオンのオーバーの襟をたてラッシュアワーのだらだら坂を下りた

「リ」の部

よりどりみどりの栗をやり取り
無理解な楽焼で蘭をらくに焼きつけるのは無理かい？
利口で理不尽なりりしい力士理事がリーチリーチに力む
隣りのいろりは黒塗りのいろり おらがいろりも黒塗りのいろり
りんりんと 凜と持ちたるなぎなたを 一振りすれば敵は散りりん
料理長が好きな擦りリンゴと角切りリンゴが入ったリンゴジュース
利口な彼が利に走り 利が利を生んだが 理非がわからず理不尽な振る舞いも限りない

「ル」の部

古栗の木の古切口
アンリ・ルネ・ルノルマンの流浪者の群れ
来る日も来る日もクルミの実を分類する苦しみ
ルールブックに載っているルーススクラムのルール
古栗の木と古桃の木に古きれと古ぼろがさがって ふらふら吹かれてふらふら吹っ飛んだ
ルビーを売る人、売るといって売る気のない人 車で来ると 車の中で寝るから歩きできた猿
ルールを破るのがルール破りのルールだが、ルールを破って落選したのだから落胆しても仕方がない

「レ」の部

レセプションの礼節レベルは零点
連れのいずれの連中にも連絡してはなりません
テレビで人気の恋愛ものの連ドラは、連休明けまでレンタル中
可憐な彼女に失恋して未練たらたら 試練の日を過ごせば心の鍛錬になるか

「ロ」の部

ろうじやくなんによ
老若男女が路頭に狼狽
楼門の老僧、路傍を六方
不器用な五郎は、今頃ろくろの前でオロオロしているだろう
もろもろの議論をろくろく理解もしない人ばかりで徒労に終わる
六年生の論文大会、六名が三段論法で明瞭な理論を論じて力比べ
ローマの牢屋の広い廊下を六十六の老人がロウソク持ってオロオロ歩く
からだの悪い老齢の俺だが 廊下から道路へ冷蔵庫を引っ張り出す荒い労働をさせられた
泥だらけでとろろ芋を取る苦勞より、とろろ芋からトロトロのとろろ汁を取る苦勞の方が大変だ
ろれつ
呂律回らず、レロレロラリる親父から離れる
酒くれるとろれつ呂律回らぬ口でヨレヨレしているが、酒くれぬなり

「リャ」の部

動力車労働組合の略式総会は流会で終了
延暦寺の僧兵は政略謀略にたけた軍略家

「リュ」の部

流氷とともに流れてきた流木に竜の絵を描いた

「リョ」の部

治療中の旅客. 最良の料理
両家の猟犬を交換する了見
五郎のりょうめ両目が五両で、十郎が十両
僧侶の思慮を伴侶は憂慮苦慮配慮
りょうこく
両国の官僚出の優良閣僚の本領は要領と横領

(10) ワ・ヲ・ン行音

和紙に驚を書く

濡れワラに馬ワラ

我が国の俵 私の瓦

これを、あれをと、お母さん

わをん をんわ んわを わをんわん

訳はわからないが、分け前は分けよう

我々には、和平条約以外に和解する道はない

若^{わか}白^{しら}髪^がの世話人も世話し忘れた、せわしない師走

若い若人の私は藁に隠れて罌にかかった若いワ二を笑った

これを、あれをとワイワイ騒ぐ、わがままな私が悪いわよ

小岩界限の祝い事で、小岩井から来た岩井さんと祝い酒を飲んだ

忘れ^{わす}れず 思^{おも}はましかば 忘れぬを 忘るるものを 思^{おも}はましやは

わが身ただ え^{こころ}心得ぬと 心得て 心得^{えがた}難き 世にも ふるかな

わがよきに 人の悪^{わる}きが あればこそ 人のつらきは わが悪きなり

われを思ふ 人を思^{おも}はぬ むくいにや わが思ふ人の われを思^{おも}はぬ

うんともすんとも言わないより、うんとかううんという方がまだ安心

ワンと鳴く犬をウォンと鳴く犬の輪の中に放せば、ワンをウォンと言いたげ